



図 5-1 断層位置図（宮城県沖地震（単独）、宮城県沖地震（連動）、昭和三陸地震）

2. データ

作成する地形データのうち、津波の遡上を左右する陸域の地盤標高については、国土地理院の数値地図 50m メッシュ（標高）を基本とし、以下の 6 地区ではより詳細な都市計画図（縮尺 1/2500 程度）を用いて修正を行った。さらに、メッシュ内の構造物の分布や土地利用状況によって津波挙動に影響のある係数の設定も行った。

また、この 6 地区では海岸構造物についても考慮し、防波堤等による津波の遮蔽（しゃへい）効果を反映させた。

6 地区：仙台塩釜港（仙台港区）、仙台塩釜港（塩釜港区）、石巻港、
女川港、気仙沼港、志津川漁港

河川については、県内の 5 つの 1 級河川と 1 つの 2 級河川について、河口から 10km までの河床標高を考慮した。

6 河川：阿武隈川、名取川、北上川、旧北上川、鳴瀬川（以上、1 級河川）
七北田川（2 級河川）

3. 計算方法および計算条件

津波の数値計算の支配方程式としては、非線形長波理論を用いた。計算は東北大学で開発された遡上数値モデルを適用した。潮位は、朔望（さくぼう）平均満潮位とした。